



国際経済学科のゼミ

内川 秀二
ゼミナール

国際経済学科のゼミナール

日本の問題を外国の状況と
比較して考える

内川 秀二 教授

今後、日本では少子高齢化がさらに進んでいきます。限られた国の財源の中で、いかに社会保障を充実させていくかは、今まさに大きな課題となっています。世界に視野を広げてみると、国民に一定の金額を一律に配布する「ユニバーサル・ベーシック・インカム（UBI）」の導入が議論され、試験的に実施されています。興味深いことに、この「UBI」の導入は社会保障費の削減と増額を主張する、二つの正反対な立場から支持されています。賛成か反対かということよりも、なぜ賛成なのか、なぜ反対なのか、その理由がより重要です。内川ゼミナールではこうした外国の事例を参照にしながら、日本の諸問題を外国の状況と比較しながら考えていきます。

広く学び、深く理解し、自らの
視野を広げる

3年 佐藤 昭人 さん

内川ゼミナールでは、人口減少問題、地方創生、ユニバーサル・ベーシック・インカム（UBI）など、分野を限定せずにゼミ生が関心のある様々な事象を拾い上げて研究を行っています。研究にあたっては、使用する新書を各ゼミ生が1章ずつ担当し、プレゼンテーションを行っています。そして現状の課題と筆者の主張を全員が理解し、最終的には課題に対する自分なりの意見や主張を持てるようにします。内川ゼミナールの魅力は、研究活動やプレゼンテーションを通して、自らの興味が自然と広がり多様な視点を手に入れられることだと思います。和気あいあいとした雰囲気の中、多少難しそうな問題でも仲間と協力しながら気軽に楽しく学ぶことができます。



海外特別研修

「カンボジア・村の子どもたちに体育を教える活動」(写真上)
「タンザニア・農業と持続可能な暮らしに関する研修」(写真下2枚)



海外諸国の経済的特質や国際的諸問題をテーマに
現地研修を通して理解を深める

「海外特別研修」は、2～4年生を対象とした選択必修科目です。国際経済を現実に即して複眼的に学ぶために、海外諸国の経済社会の特質や国際的諸問題を、現地研修を通じて理解することを目的としています。授業はセミナー形式の少人数制であり、前期授業での事前学習をふまえて、夏期休暇中に現地研修に赴き（各自スタディツアーに参加）、帰国後の後期授業で研修成果の分析・報告を行います。2019年度は、「国際協力」「東南アジア」「欧米」を研修地域・テーマとする3クラスが展開されました。感染症パンデミックが収束し、この「海外特別研修」がまた元のように、学生時代に海外体験の一步を踏み出したいと考える皆さんにとって格好の足掛かりとなればと願っています。



世界に触れることで、特別な体験を

NGO論



この講義の目的は、発展途上国への開発支援を行うNGO（非政府組織）の活動を実体験を通じて学ぶことにあります。国際開発協力に関する理論や事例研究に加え、NGOで働くゲストを交えて少人数で授業が行われること、そして夏期休暇中に学生自らが選択したアジアやアフリカ、中南米等の国を直接訪問して現地でのNGOの活動を直に体験できることが、この講義の魅力といえるでしょう。

学生
体験記

ストリートチルドレンを支援する
NGOツアーでの経験

4年 金子 紗耶加 さん

「NGO論」ではメキシコのストリートチルドレンに焦点を当てて研究しました。ジャーナリストの工藤律子さんが共同代表を務める団体のメキシコのスタディツアーに参加し、現地のNGO団体を訪問しました。ツアーではストリートに暮らす子どもたちの現状や、貧困の世代間連鎖に苦しむ人々の声を聞きたが、自分の無力さを痛感しました。一方で、現状を打開しようとする多くの人々の奮闘や、子どもたちが困難に立ち向かう様子を見て、解決が難しい問題に対してどう向き合うかを考えさせられました。

